



## 海外に目を向けること(6年生)

11月17日(金)に総合的な学習の時間「集まれ!地球の仲間たち」という単元で、6年生が、海外のことについて学習をしました。青年海外協力隊員の方をお招きして、外国の文化や暮らし、日本の支援活動などについてお話を聴きました。今回は、6年生の感想を中心にお伝えします。

### 【6年生の感想】

- この前は、潮見小学校に来て、いろいろなことを教えてください、ありがとうございました。ネパールの人のすごさや環境問題の大変さがよく分かりました。中でも、私がびっくりしたことは、2つありました。

一つめは、有名な山のエベレストがごみだらけということです。私が考えていたエベレストとはかけ離れていてびっくりしました。

二つめは、ネパールにもネパール人だけの服があったということです。その生地が薄いことにもびっくりしました。今回の授業で、私はネパールのことが学べて、本当によかったなと思います。話の内容も分かりやすく、もっとネパールのことを知りたいなと思いました。本当にありがとうございました。

- 実際にお話を聞いて、パナマについて知ることができて良かったです。パナマの国鳥はオウギワシで、羽を広げると2mで、握力が140kgもあってびっくりしました。パナマのボルガン小学校では、日本と違って低学年は7時から11時40分までで、高学年は、正午から4時40分まであります。勉強する時間が短くていいなと思いました。授業で、農業の時間があることが分かりました。面積は北海道と同じくらいで、意外と小さかったです。パナマの季節は、夏と冬しかないことが分かりました。スペイン語を教えてもらって、友達と自己紹介することができて楽しかったです。協力隊員の主な仕事は、段ボールと新聞紙の分別・回収と環境についての授業、木を1000本植える活動と聞いて、大変だなと思いました。お話を聞いて、パナマのことがもっと知りたくなりました。

- 僕は、ザンビアについて話を聞いて、最初にびっくりしたのが、面積が、日本の約2倍あるということです。それを聞く前は、日本より小さいと思っていたので、びっくりしました。他にも、8割近くはキリスト教徒ということや、主に英語やニャンジャ語を使って話していると聞きました。あと、食事のときには、主



食は「シマ」で「トウモロコシ」が使われていると聞きました。最初は、パンなどの小麦粉が使われているのかなと思ったけれど、トウモロコシが使われていると聞いた時は、すごくびっくりしました。

他にも、学校は小学校7年生までであり、今の日本と全く違うなと思いました。物不足、学力不足、先生不足などといった課題もありました。けれど、先生向けのワークショップなどをつくることといった、解決方法などもありました。これからも病気にならず頑張ってください。



- 私はモザンビークが、小学校が7年生までであることや1クラス大体50人、多くて80人ということを知って、とても驚きました。モザンビークと日本の学校や生活環境の違いに驚きました。小学校や中学校の名前は、記念日や人の名前などをつけることが多いと聞いて、名前の想像が付きませんでした。授業の音楽や美術は、ものなどの説明だけで、歌ったりしないそうなのでどんな感じが気になりました。モザンビークで唯一の世界遺産は、モザンビーク島で、講師の方はそこに住んでいたと聞いて驚きました。モザンビークはフレンドリーな人が多いと聞き、生活したらとても楽しそうだなと思いました。その一方で、モザンビークでは、強盗やすりが多いらしく、治安が悪いと聞き、少し怖くなりました。子どもたちが、ボールなどを工夫して作って、サッカーなどをしている様子を見て、すごいなと思いました。



ネパール、パナマ、ザンビア、モザンビークで活動をされていた方々から、貴重なお話を聞いて、海外に関心をもつことができました。ネパールは、インドの北部に位置し、ヒマラヤ山脈で知られている国です、パナマは中米の国で、パナマ運河で知られていますし、今治市とパナマ市は姉妹都市でもあります。ザンビア、モザンビークは、アフリカ南部の国で互いに隣接しています。自然が豊かで、アフリカの中では比較的治安がよいともされています。インターネットや書籍で調べることはできますが、実際に現地で暮らし、支援活動をしている人たちの話を聞くと、資料とは別の視点で考えることができます。



今、世界で起きている争いが毎日のように報道されています。小学生でも、そういった情報を見聞きすることで、子どもたちなりに思うところがあるはずです。日本と外国を比べたり、自分が国際社会でできることを考えたりすることも大事なことです。こういった機会を生かしていきたいと思います。